

2. 流域及び河川の自然環境

2.1 流域の自然環境

渡川水系は、その源を高知県高岡郡津野町の^{いらずやま}不入山（標高 1,336m）に発し、高知県南西部に位置している。「四万十源流の森」をはじめとする数多くの溪流の水を集め、山間溪谷部を流下する上流域、豊かな森林に囲まれた自然河岸の中を大きく蛇行を繰り返しながらゆったりと流れる中流域、海産魚をはじめ多くの魚や動植物が生息・生育・繁殖している汽水域が広がる下流域からなる。

源流である不入山から佐賀取水堰までの上流部では、ブナ林やコウヤマキ林が生育しているほか、溪流の水域にはアマゴ（アメゴ）やモクズガニ（ツガニ）が生息・繁殖し、水温が1年を通じて約 15℃と一定の清流にしか自生しない緑藻類のセイラン（カワノリ）が自生しており、高知県では食用として珍重されている。また、日本三鳴鳥のひとつであるオオルリのほか、^{ゆすはらがわ}梶原川付近では準絶滅危惧種であるアカショウビンが生息・繁殖している。

佐賀取水堰から四万十市佐田付近までの中流部では、「青く澄んだ水」や「ゆったりとした水の流れ」、「広く白い河原」、そして「自然河岸の緑」が、47橋も残されている「沈下橋」とともに四万十川の特徴的な河川景観を構成している。水域には全国的に少なくなりつつあるカマキリ（アユカケ）が生息・繁殖するほか、河床勾配が緩やかで途中に堰などの障害物も無いことから河口から約 80km の中流域ではボラやスズキ、などの海水魚が確認されたことがある。また、四万十川の全流域に分布しているテナガエビやモクズガニ（ツガニ）等が生息・繁殖しており、ともに食用として流域住民に親しまれている。自然河岸には、キシツツジや日本固有種で四国のみで自生するトサシモツケが生育するほか、水辺にはカジカガエルやゲンジボタル、ハグロトンボ、コシボソヤンマ等が生息・繁殖している。

鳥類では、高知県の天然記念物に指定されているヤイロチョウのほか、溪流や河畔林においてヤマセミ、カワセミ等が生息・繁殖している。

四万十市佐田から河口までの下流域では、良好なアユの産卵場となっている瀬があり、河畔林では絶滅危惧種であるマイヅルテンナンショウの群落が見つかったほか、湿地ではコガタノゲンゴロウが生息・繁殖している。

汽水域では、環境省レッドデータリストで絶滅危惧 I B 類に指定されているアカメが生息・繁殖しているほか、海水魚も多く、流域全体では194種類もの魚類が確認されている。

藻類では、全国1位の収穫量を誇る天然のスジアオノリや重要な水産資源であるヒトエグサ（アオサ）の養殖が盛んに行われている。

河口に近い大島周辺の干潟は、アカメをはじめ多くの仔稚魚の生息場となっているコアマモが生育している他、ハクセンシオマネキ等の底生動物の重要な生息・繁殖環境となっている。

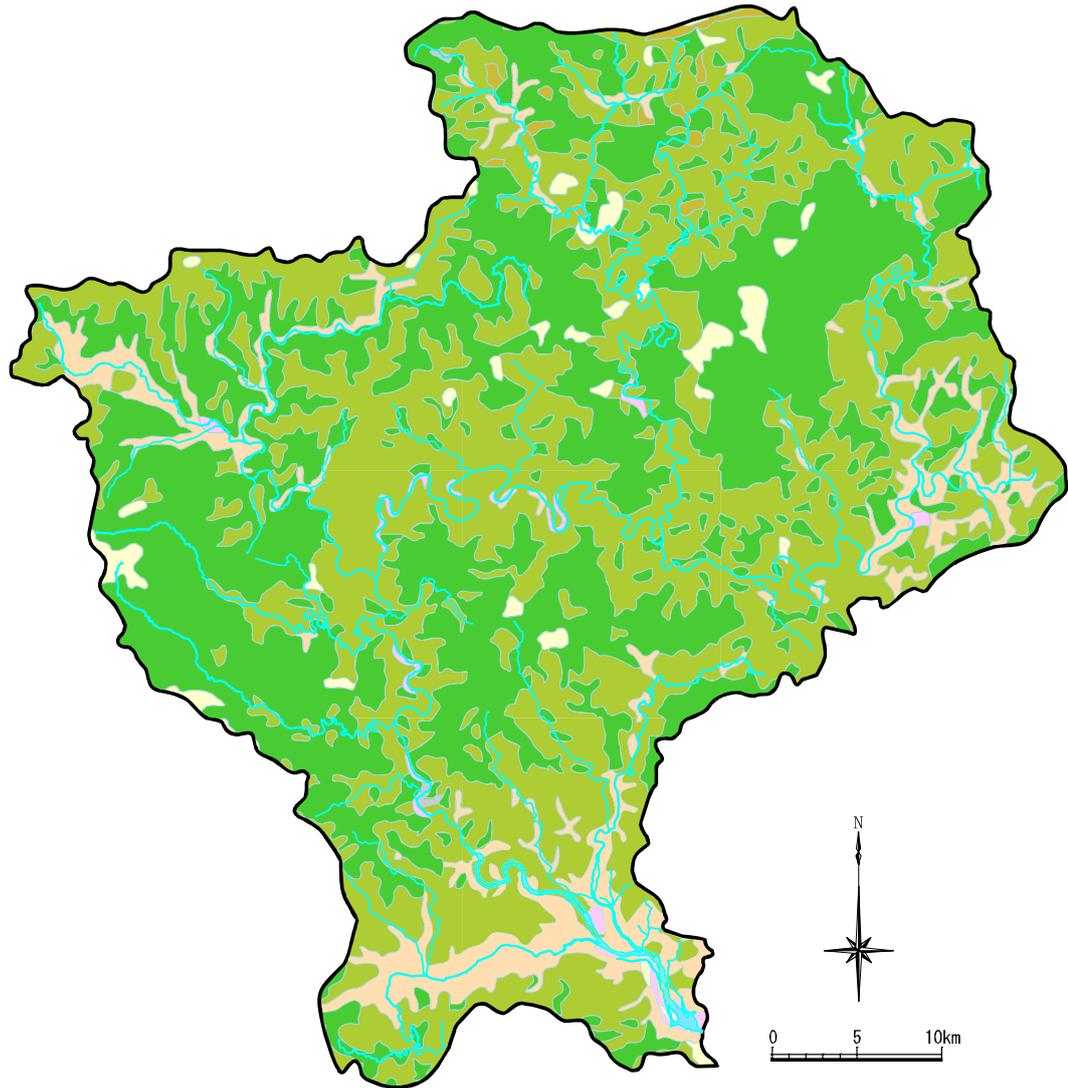
また、ヨシ帯周辺の砂泥質地は、ヨドシロヘリハンミョウ等の昆虫類にとっても重要な繁殖環境となっている。



四万十川源流



干潟・河口部



自然度	自然度区分の基準
9~10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原のうち単層の植物社会を形成する
	エゾマツ-トドマツ群集、ブナ群集のうち多層の植物社会を形成する
7~8	ブナ-ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林。代償植生でも特に自然に近いもの
	クリ-ミズナラ群集、クヌギ・コナラ群落。二次林と呼ばれる代償植生地区
6	常緑・落葉針葉樹、常緑広葉樹等の緑林地
5	ササ・ススキ群落等背丈の高い草原
4	シバ群落等背丈の低い草原
3	果樹園、桑畑、茶畑、苗圃等の樹園地
2	水田、畑地等の耕作地、緑の多い住宅地
1	植生のほとんど残っていない市街地、造成地等

出典：日本植生誌 四国 (S57 宮脇 昭)

図 2.1.1 渡川水系植生図

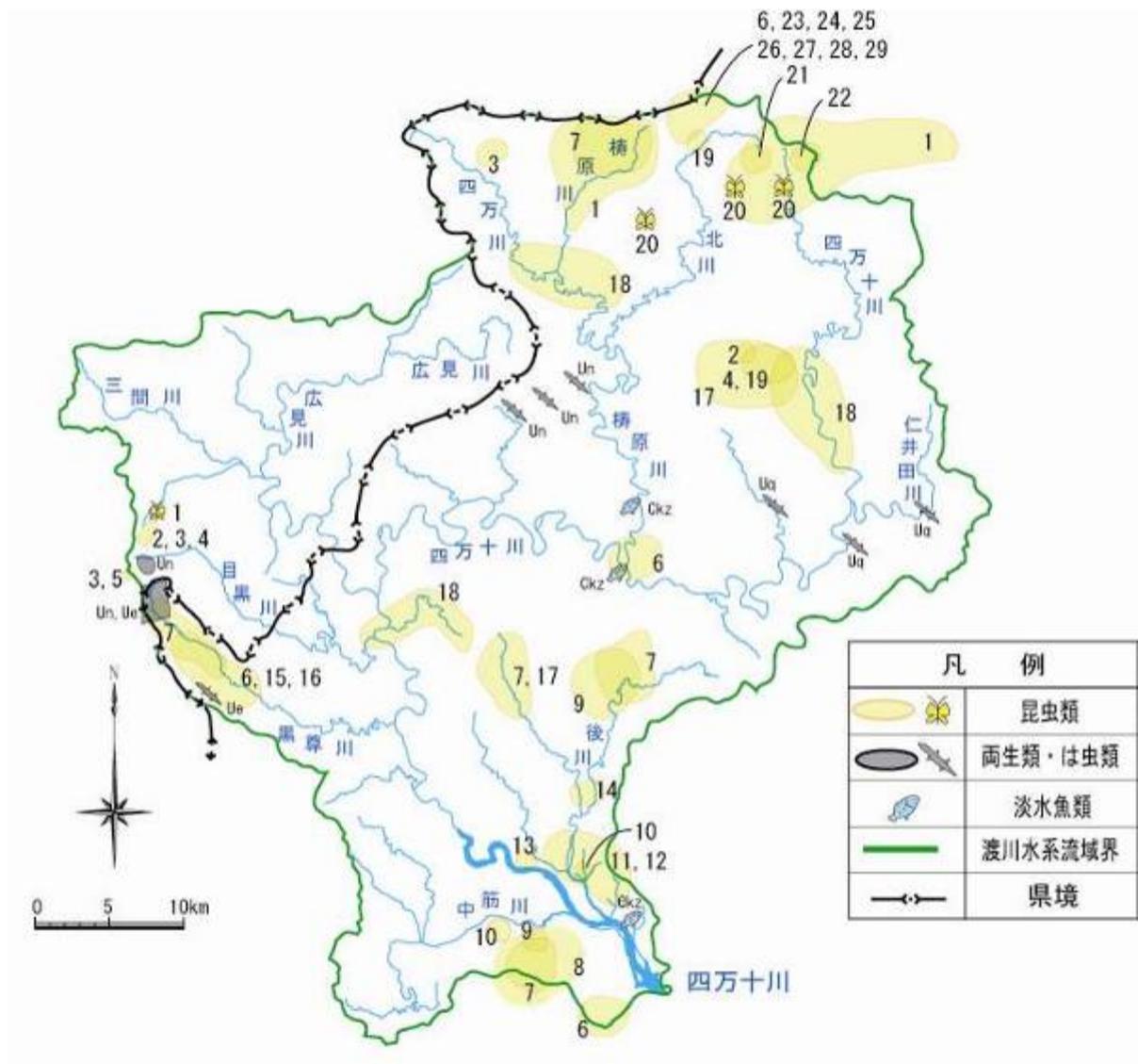


図 2.1.2 渡川水系の動物

昆虫類					両生類・爬虫類		
番号	種名	番号	種名	番号	種名	番号	種名
1	オオムラサキ	11	ネアカヨシヤンマ	21	マエフタスジシリアゲ	Uq	オオサンショウウオ
2	ルーミスシジミ	12	オキナワリチラス	22	チャマダラセセリ	Ue	ブチサンショウウオ
3	キシマミドリシジミ	13	コフキヒメイトトンボ	23	オオクボカミキリ	Un	オオダイガハラサンショウウオ
4	シコクヒメハナカミキリ	14	台湾ウチワヤンマ	24	コジマベニスジカミキリ		
5	ツノクロツヤムシ	15	スカシリアゲモドキ	25	オニクロツヤムシ		淡水魚類
6	トサオサムシ	16	コゲチャヒラタカミキリ	26	ウスバシロチョウ	番号	種名
7	ムカシトンボ	17	ハルゼミ	27	スジボソヤマキチョウ	Ckz	カマキリ
8	シコクトゲオトンボ	18	ゲンジボタル	28	ツマジロウラジャノメ		
9	ミナミヤンマ	19	トドマツノキバチ	29	フタスジカタビロハナカミキリ		
10	ベッコウトンボ	20	ガロアムシ目				

出典) 第2回自然環境保全調査報告書・動植物分布図(高知県、愛媛県)

2.2 河川及びその周辺の自然環境

四万十川の自然環境は、河道特性、地形特性及び生物の出現状況等を勘案すると、山間溪谷部の清冽な流れの源流から佐賀取水堰までの上流部、大きく蛇行を繰り返しながら瀬淵を形成し流下し、沈下橋等による里山の景観が特徴である佐賀取水堰から四万十市佐田付近までの中流部、山地から平野部に入り四万十川の豊かな自然環境を育む広大な汽水域を有する佐田付近から河口までの下流部に大きく区分される。

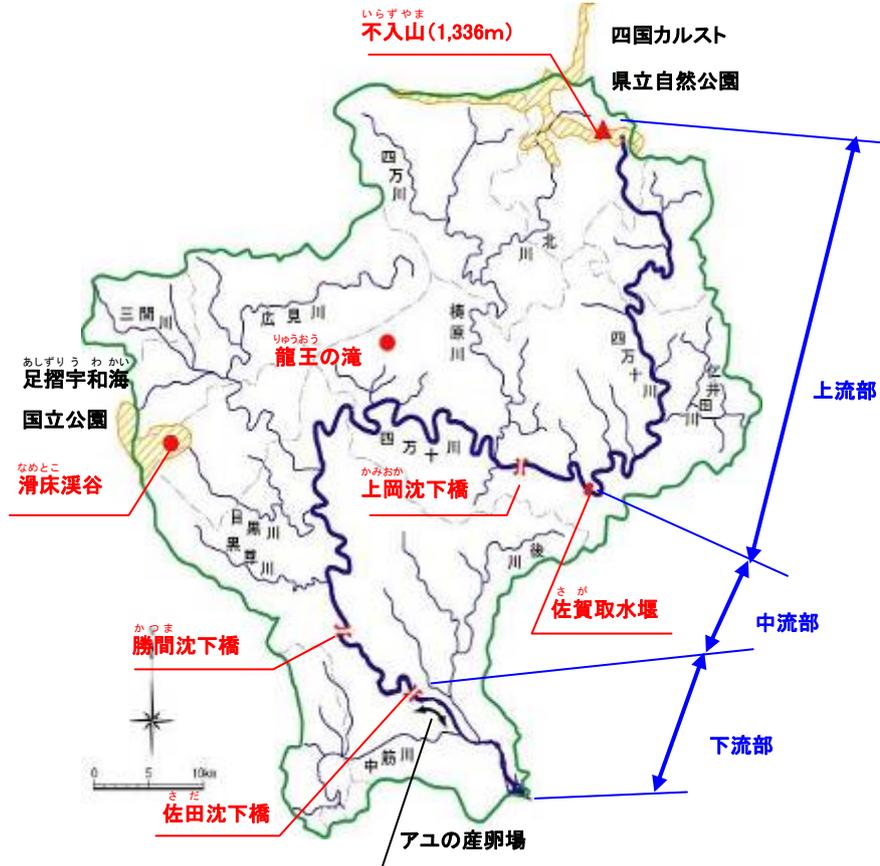


図 2.2.1 流域区分図

表 2.2.1 自然環境区分

区分	上流部	中流部	下流部	中筋川	後川
区間	佐賀取水堰～源流	佐田付近～佐賀取水堰	河口～佐田付近	四万十川合流点～磯ノ川上流	四万十川合流点～内川合流上流
地形	山地	山地	平地	低平地	平地
特性	溪流、瀬・淵	瀬・淵、里山景観	汽水域、干潟、砂礫河原、河畔林	汽水域、湿地	河畔林
河床材料	巨石、岩、礫	岩、礫	砂礫	砂礫、砂泥	砂礫
勾配	1/650～1/100	1/1,300～1/380	1/2,200～1/1,200	1/8,000～1/1,500	1/3,000～1/600
植物相	モミ、ツガ、キシツツジ、セイラン(カワノリ)	トサシモツケ、シチョウゲ、キシツツジ	アカメヤナギ、ヨシ、ウラギク、コアマモ、スジアオノリ	ヒメナミキ、オギ、スジアオノリ	オギ、ニラバラシ、エノキ
動物相	アマゴ、ヒナイドジョウ、サワガニ、モクスガニ、オオルリ、アカショウビン	アカザ、アユカケ、テナガエビ、ヤイロチョウ、カワセミ	アユ、トビハゼ、アカメヨドシロヘリ、ハンミョウ、シオマネキ、トンボ類、ミサゴ、オオヨシキリ	オイカワ、ヤリタナゴ、ヨコモジドロムシ、セスジイトンボ、アオゲラ、ナベツル	ボウズハゼ、ヒナイドジョウ、ヨコモジドロムシ、セスジイトンボ、カワセミ

2.2.1 上流部【源流～佐賀取水堰】

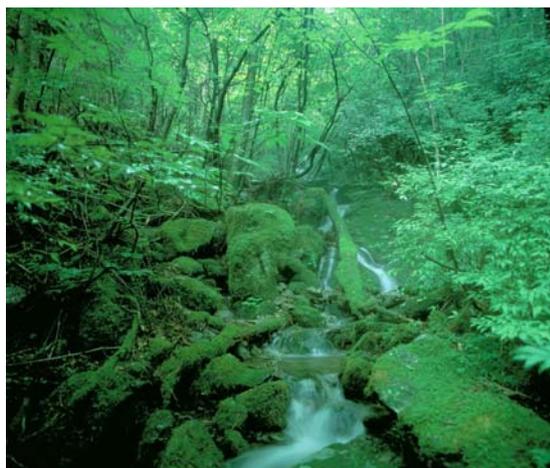
四万十川上流部は、モミ、ツガを主とする原生林が残り、源流部である不入山では、ブナ林やコウヤマキ林が生育している。

魚類としては、上流部にはアマゴ（アメゴ）等が生息・繁殖している。アマゴは年間を通じて水温が 20℃以下の渓流域に生息し、養殖も盛んに行われている。その他、四国の固有種であり、高知県希少野生動植物保護条例で指定されている冷水性かつ清流性が強く、泥やシルトに覆われていない浮石状の礫床に生息するヒナシドジョウなどの重要な種も生息している。

底生動物としては、上流部にはサワガニやモクズガニ（ツガニ）が生息・繁殖している。昔から食用として親しまれているモクズガニ（ツガニ）は四万十川全流域に分布し、河口や周辺海域で孵化後、稚カニとなって上流部まで遡上する。また、グンバイトンボや四国地方のみに生息するシコクトゲオトンボが生息している。

鳥類では、よくとおるゆっくりとした独特の美声のさえずりが特徴で、日本三鳴鳥のひとつであるオオルリが生息・繁殖する。その他、キセキレイや、梶原川付近では低山帯の原生林（ブナ林等）を好み、古木等に穴を掘って営巣するアカショウビンが生息・繁殖している。

植物は、水温が 1 年を通じて約 15℃と一定の清流しか自生しない緑藻類のセイラン（カワノリ）が生息しており、高知県では食用として珍重されている。



四万十川源流



モクズガニ（ツガニ）



オオルリ



セイラン（カワノリ）

2.2.2 中流部【佐賀取水堰～四万十市佐田付近】

中流部では大きく蛇行を繰り返しつつ、勾配が緩いためゆったりと流れ湾曲部の内岸側には河原が形成し、沈下橋等による里山の景観とともに空と河原と水面のコントラストも“四万十川らしい”景観の特徴となっている。

水域には全国的に少なくなりつつあるカマキリ（アユカケ）が生息・繁殖するほか、河床勾配が緩やかで途中に堰などの障害物も無いことから、河口から約80kmの中流域ではボラやスズキなどの海水魚が確認されたことがある。また、四万十川の全流域に分布しているテナガエビやモクズガニ（ツガニ）等が生息・繁殖しており、ともに食用として流域住民に親しまれている。

底生動物としては、石の下や水草の茂みになどではテナガエビ、モクズガニ等が数多く生息・繁殖し、河原や岩・草地等にはカジカガエル、タゴガエル、シマヘビ等の両生類・爬虫類が生息し、止水域やたまり等にはゲンジボタル、トゲウスバカミキリ、ハグロトンボ、コシボソヤンマ等の昆虫類も生息・繁殖している。

鳥類としては、赤、黄、緑、コバルトブルーなどの八色の美しい体色をもつことからその名が付けられ、高知県の天然記念物に指定されているとともに高知県の県鳥でもあるヤイロチョウのほか、溪流や河畔林においてヤマセミ、カワセミなどが生息・繁殖している。

中流域の川沿いの岩上にはシチョウゲや日本固有種で四国のみで川沿いの岩上に自生するトサシモツケ等が群生し、自然河岸等にはキシツツジが生育している。

また、中流部に合流する支川には、滑床溪谷等の多くの景勝地がある。



岩間沈下橋



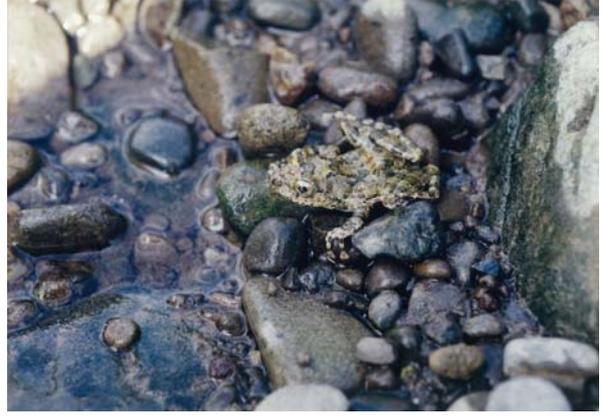
勝間付近



滑床溪谷



テナガエビ



カジカガエル



ヤイロチョウ



トサシモツケ

2.2.3 下流部【四万十市佐田付近～河口】

四万十市佐田付近から河口までの下流部は徐々に平野が広がり、入田地区に入ると広大な砂州が広がる。また、入田地区の瀬にはアユの産卵場があり、アユ釣りの解禁日には多くの釣り人で賑わう。入田地区内のワンド・たまり等の止水域では近年は本州ではほとんど見られないコガタノゲンゴロウが生息・繁殖しており、湿性草地では高知県では絶滅したとされていたマイヅルテンナンショウ（高知県希少野生動植物保護条例指定種）の大群落が近年確認されるなど、数多くの貴重な動植物が生息・生育・繁殖している。

四万十川橋（赤鉄橋）下流は清流四万十川の豊かな自然環境を象徴する汽水環境が広がっており、全国的にも生息域が少ないアカメのほか多くの種類の汽水・海水魚等が生息・繁殖している。四万十川のアカメは、過去には1mを越す個体も数多く確認されている。

河口から1Kmあまり上流にある大島は、昭和30年頃までは養蚕農家による桑畑等の耕作が盛んであったが、島内での耕作の減少とともに、徐々に樹林化が進行して今日のような状況に至っている。大島周辺の干潟からヨシ帯にかけては高知県ではここだけでしか確認されていないヨドシロヘリハンミョウ等の数多くの貴重な動植物が生息・生育・繁殖している。

大島周辺を含む河口部の干潟では、ハクセンシオマネキや高知県希少野生動植物保護条例で指定されているトビハゼも生息・繁殖している他、クロホシマンジュウダイなどの重要な魚やアユ、スズキ、クロダイ、キチヌなどの水産上重要な種が多数確認されている。

また、汽水域の砂礫底の河床にはスジアオノリが生育し、砂泥底の河床にはアカメ等の稚仔魚の生育場として重要な役割を果たしているコアマモが生育している他、地域の重要な水産資源であるヒトエグサ（アオサ）の養殖も行われている。



入田地区（下流方向を望む）



河口部（上流方向を望む）



大島と周辺の干潟



スジアオノリ漁とスジアオノリ（上）



コアマモ



アカメ



ヨドシロヘリハンミョウ

四万十川の下流河口域はコアマモ、アカメなどの希少種等が生育・生息しており、環境省より日本の重要湿地 500 に選定されている。

2.2.4 中筋川【磯ノ川上流～四万十川合流点】

支川中筋川は、扇状地性低地の田園地帯を蛇行しながら緩やかに流れ、^{はざま}間地区には湿地帯が広がっており、植物ではミズオトギリ、ヒメナミキ、クロテンツキ、ヤナギイノコズチ等、底生動物ではヨコミゾドロムシ、イシガイ等、昆虫類ではコフキヒメイトトンボ、セスジイトトンボ、ムスジイトトンボ、トックリゴミムシ等、魚類ではヤリタナゴ、メダカ等、鳥類ではミサゴ、ノスリ、ハイタカ、ヒクイナ、ホオアカ等が生息・生育・繁殖している。

山路橋付近より下流の砂礫底の河床には四万十川を代表する重要な水産資源であるスジアオノリや絶滅危惧種(高知県IB類)のコアマモが生育している。

中筋川流域には昭和40年代からナベヅル、マナヅル等が渡来しており、平成12年までは越冬も確認されていた。しかし、最近はツルの渡来はあるものの越冬の姿が見られなくなった。そのため、地域住民により「四万十つるの里づくりの会」が平成18年に設立され、越冬環境の保全・整備の取り組みも進められている。



間地区(上流方向を望む)



山路橋付近下流部(上流方向を望む)



マナヅル



ヒメナミキ

2.2.5 後川【^{あきた}秋田上流～四万十川合流点】

支川後川は、田園地帯を流下しながら連続した瀬・淵を形成し、植物ではオギ、ニラバラン等、底生動物ではヨコミゾドロムシ等、昆虫類ではセスジイトトンボ等、魚類ではボウズハゼ、カマキリ(アユカケ)の他、流れの緩やかな箇所にはメダカ、ヤリタナゴ等、鳥類ではカワセミ等が生息・生育・繁殖している。秋田地区では、瀬・淵やワンド等の多様な環境が保たれており、環境省の絶滅危惧 IB 類、高知県希少野生動植物保護条例指定種のヒナイシドジョウの生息が確認されている。



秋田地区(上流方向を望む)



四万十川合流点付近(上流方向を望む)



カマキリ(アユカケ)



ヒナイシドジョウ

2.3 渡川における重要種

既往の河川水辺の国勢調査等により確認された種のうち、環境省レッドリスト・高知県レッドデータブック等によりその生息、生育が危惧されている種（重要種）は、次項以降に示すとおりであり、魚類 46 種、底生動物 71 種、植物 83 種、鳥類 67 種、両生類・爬虫類・哺乳類 7 種、陸上昆虫類 106 種の合計 380 種となっている。

表 2.3.1 重要な種の選定根拠

区分	選定	文献名	所管管理者	年度	選定対象 〈内略号
法律・条令	1	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	環境省	1992	国内希少野生動物種〈絶滅〉 (対象:植物、魚類、鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類、昆虫類)
	2	文化財保護法、 文化財保護条例	文化庁 都道府県	1950	国指定天然記念物〈国天〉 都道府県天然記念物〈県天〉
	3	高知県希少野生動植物保護条例	高知県	2007	高知県内希少野生動物種
環境省版レッドデータブック・レッドリスト	4	鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて	環境省	2006	絶滅〈EX〉、野生絶滅〈EW〉、 絶滅危惧 I 類〈CR+EN〉、 絶滅危惧 I A 類〈CR〉、 絶滅危惧 I B 類〈EN〉、 絶滅危惧 II 類〈VU〉、
	5	哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて	環境省	2007	準絶滅危惧〈NT〉、 情報不足〈DD〉、 絶滅のおそれがある地域個体群〈LP〉
高知県版レッドデータブック	6	高知県レッドデータブック		2002	同上
愛媛県版レッドデータブック	7	愛媛県レッドデータブック		2004	同上 その他愛媛県特記種 低地減少種 県調査種
干潟レッドデータブック	8	日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状 WWF-JapanサイエンスレポートVol.3	(財)世界自然保護基金日本委員会	1996	絶滅、絶滅寸前、危険、希少、状況不明
その他	9	日本の希少な野生水生生物に関するデータブック	水産庁	1998	絶滅危惧、危急、希少、減少、減少傾向、普通、 地域個体群

表 2.3.2 魚類の重要種一覧表

No.	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	確認箇所			
		種の保存法	天然記念物	高知県条例	環境省RL	環境省RL	高知県RD	愛媛県RD	WWF干潟	水産庁RD	四万十川	後川	中筋川	
1	オオウナギ					EN	VU	VU				○	○	
2	ドロクイ					EN	VU					○		
3	オオキンブナ					DD	DD					○	○	○
4	ヤリタナゴ					NT	EN	EN				○	○	○
5	モツゴ						VU	NT				○		○
6	タモロコ						LP	NT					○	○
7	ドジョウ						VU	NT				○		
8	ヒナイシドジョウ			○		EN	EN					○	○	
9	アカザ					VU	EN	EN				○	○	○
10	メダカ					VU	EN	VU				○	○	○
11	ヨウジウオ						CR					○		
12	カワヨウジ						EN					○		
13	カマキリ					VU	VU	DD				○	○	
14	ウツセミカジカ (小卵回遊型カジカ)					EN	EX					○		
15	アカメ					EN	CR	DD				○		
16	ダイミョウサギ						NT					○		
17	クロホシマンジュウダイ						NT	DD				○		
18	メナダ						DD					○		
19	コボラ						DD					○		
20	ナンヨウボラ						DD					○		
21	チワラスボ					EN	CR					○		
22	シロウオ					VU	EN	VU				○		
23	ヒモハゼ					NT	EN	NT				○		
24	タネハゼ						EN	VU				○		
25	カワアナゴ						NT	NT				○	○	○
26	チチブモドキ						NT	DD				○		
27	オカメハゼ						DD					○		
28	ヤエヤマノコギリハゼ					EN						○		
29	タナゴモドキ					EN						○		
30	タビラクチ					EN	VU					○		
31	トビハゼ			○		NT	VU	VU				○		
32	スミウキゴリ					LP	NT					○	○	
33	クボハゼ					EN	EN	EN				○		
34	アシシロハゼ						EN					○		
35	ボウズハゼ						NT					○	○	
36	マサゴハゼ					VU	NT	VU				○		
	Acentrogobius属の一種						DD					○		
37	クロコハゼ						NT	VU				○		
38	ゴマハゼ					VU	EN	VU				○		
39	チチブ						NT					○		
40	ギマ						NT					○		
41	アミメカワヨウジ					EN						○		
42	ウナギ					DD						○	○	○
43	ニッコウイワナ					DD						○		
44	アマゴ					NT						○		
45	オニボラ					DD						○		
46	オクヨウジ						DD					○		

表 2.3.3 底生動物の重要種一覧表

No.	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	確認箇所		
		種の保存法	天然記念物	高知県条例	環境省RL	環境省RL	高知県RD	愛媛県RD	WWF干潟	水産庁RD	四万十川	後川	中筋川
1	ヒロクチカノコガイ					VU	CR		絶滅寸前	希少種	○		
2	マルタニシ					NT					○		○
3	モノアラガイ					NT					○	○	○
4	ドブガイ						NT				○	○	○
5	マツカサガイ					NT	CR	VU			○		○
6	イシガイ						CR	CR+EN			○		○
7	シラタエビ						NT				○		
8	トゲアシヒライソガニモドキ						DD				○	○	
9	トウヨウヤワラガニ						DD				○		
10	カワスナガニ					NT	NT		絶滅寸前		○	○	
11	シオマネキ			○		VU	CR	CR+EN	危険	希少種	○		
12	ハクセンシオマネキ					VU	NT	NT	危険		○		
13	チラカゲロウ						NT				○	○	○
14	アジアイトトンボ						NT				○		
15	モノサシトンボ						NT				○		○
16	マルタンヤンマ						NT	CR+EN			○		
17	クロスジギンヤンマ						NT				○		
18	ギンヤンマ						NT				○		○
19	ミヤマサナエ						NT	NT				○	
20	キイロサナエ						NT	NT			○	○	○
21	アオサナエ						NT	VU			○	○	○
22	ヒメサナエ						NT				○	○	○
23	オジロサナエ						NT				○	○	○
24	タバサナエ						NT				○		
25	マイコアカネ						NT				○	○	○
26	ヒメオオヤマカワゲラ						NT				○	○	
27	クロスジヘビトンボ						NT				○		○
28	ムネカクトビケラ						DD				○	○	
29	ホソバトビケラ						NT				○	○	○
30	ゲンゴロウ					NT	CR	CR+EN			○		○
31	コガタノゲンゴロウ					CR+EN	CR	VU			○	○	
32	ウスイロシマゲンゴロウ						NT				○		
33	ルイスツブゲンゴロウ						NT				○		○
34	ヨコモソドロムシ					VU					○		○
35	イシマキガイ									減少種	○	○	
36	カノコガイ								希少		○	○	
37	ムシヤドリカワザンショウガイ						NT		危険		○		
38	エドガワミズゴマツボ					NT			危険		○		
39	カワグチツボ					NT		CR+EN	危険		○		
40	タケノコカワニナ					VU		VU	絶滅寸前			○	
41	ナラビオカミミガイ					VU	CR	CR+EN	危険		○		
42	モクズガニ									減少傾向	○	○	○
43	ヒメアシハラガニ						NT	NT			○		
44	タイワンヒライソモドキ								希少		○		
45	オオヒライソガニ								希少		○	○	
46	アリアケモドキ							CR+EN	希少		○	○	
47	マメコブシガニ						VU				○		
48	オオタニシ					NT					○		
49	ツマキレオナガミズスマシ					NT					○		
50	マシジミ					NT					○	○	○
51	ヤマトシジミ					NT		CR+EN			○		
52	フネアマガイ							CR+EN		減少傾向	○		
53	キンランカノコ								危険		○		
54	ミヤコドリガイ								危険		○		
55	クリイロカワザンショウガイ						NT				○		
56	ヨシダカワザンショウ					VU	NT		危険		○		
57	カラスキセウタ								危険		○		
58	ウミナメクジ								危険		○		
59	ソトオリガイ								危険		○		
60	ミナミテナガエビ									減少種	○	○	
61	ウモレベンケイガニ								希少		○		
62	ヒメベンケイガニ						DD				○		
63	クシテガニ						EN		希少		○		
64	ケフサヒライソモドキ								希少		○		
65	アリアケガニ								危険		○		
66	ムカシトンボ						NT						○
67	ネアカヨシヤンマ					NT	NT	NT					○
68	コシボソヤンマ						VU						○
69	ヒメクロサナエ						NT						○
70	タカネトンボ						NT						○
71	ヤマトクロスジヘビトンボ						NT						○

表 2.3.4 植物類の重要種一覧表

No.	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	確認箇所		
		種の保存法	天然記念物	高知県条例	環境省RL	環境省RL	高知県RD	愛媛県RD	WWF干潟	水産庁RD	四万十川	後川	中筋川
1	イチョウウキゴケ					NT		CR+EN			○		○
2	ダチクラマゴケ						DD				○		
3	カワヤナギ						VU				○	○	
4	アカソ						CR	VU			○		
5	ホソバノウナギツカミ					NT						○	○
6	スカボタデ					VU	NT	DD			○		○
7	アキノミチヤナギ						CR	NT			○		
8	コギシギシ					VU	VU	NT			○	○	○
9	アゼオトギリ					EN	EN	CR			○		○
10	コイスガラシ					NT	EX	NT			○		
11	タコノアシ					NT	NT	VU			○	○	○
12	トサシモツケ						VU				○		
13	クララ						NT	VU			○	○	○
14	フッキソウ						VU				○	○	
15	ハマボウ						CR	VU			○		
16	オオナワシログミ						CR				○		
17	ミノハコベ						DD				○		○
18	ミズキカシグサ					VU	CR	DD			○		
19	ミスマツバ					VU	VU	NT			○		○
20	ウスゲチウジタデ					NT					○		
21	ミズユキノシタ						NT				○		○
22	ミヤマコナスビ						NT				○		
23	シチョウゲ					NT	NT				○		
24	マメダオシ					CR	VU	DD			○	○	○
25	ミズネコノオ					NT	NT	EX			○		
26	レモンユゴマ						NT					○	○
27	ミノコウジュ					NT	VU				○	○	○
28	イヌゴマ						CR				○		
29	スズメハコベ					VU	CR	VU			○		○
30	カワチシャ					NT	NT				○		○
31	ウラギク					VU	NT	VU			○		
32	コアマモ						EN	NT			○		
33	ヒメイワギボウシ						VU	VU			○		○
34	ホソイ						DD	EN			○	○	
35	アイアシ						EN	DD			○		
36	イヌアワ						EN	CR			○	○	
37	ナガミノオニシバ						NT				○		
38	マイルテンナンショウ			○		VU	EX	CR			○		
39	ウラシマソウ						EN	EN			○		
	ミクリ属の一種					NT	CR	VU				○	○
40	フサスゲ						NT	NT			○	○	○
41	シバスゲ						VU	VU			○		
42	アゼスゲ						EN	EN			○		
43	タシロスゲ						CR				○		
44	セイタカハリイ						NT	DD			○		○
45	ヒメヒラテンツキ						VU				○		
46	クロテンツキ						EN				○		○
47	イトイヌノハナヒゲ						EX				○		
48	マツカサススキ						NT	EN			○		
49	クマガイソウ					VU	CR	VU			○		
50	ニラバラン						EN	VU			○	○	
51	ハクチョウゲ					EN					○		
52	オナモミ					VU		DD			○		○
53	ナガバノウナギツカミ					NT					○	○	○
54	ハチジョウシダ						VU	DD					○
55	ニシノコハチジョウシダ						EN						○
56	アイコハチジョウシダ						EN						○
57	ヤウラハチジョウシダ						EN						○
58	オトコシダ						CR	CR					○
59	ツクシイワヘゴ						VU	NT					○
60	ツクシオオクジャク						EN	CR					○
61	ワカナシダ						VU						○
62	アミシダ						EN						○
63	ツクシノキシノブ						NT	EN					○
64	ヤナギイノコズチ						CR	DD					○
65	サショウアオイ						NT						○
66	ナンカイアオイ					VU	NT	VU					○
67	ミズオトギリ						CR	CR					○
68	コモウセンゴケ						NT	CR					○
69	ツゲモチ						VU	DD					○
70	アオカモメヅル						EN						○
71	クサナギオゴケ					VU	EN						○
72	ヤマクルマバナ						CR						○
73	ヒメサルダヒコ						NT						○
74	ヒメナミキ						CR	CR					○
75	トラノオスズカケ						VU	CR					○
76	ヤマヒヨドリ						EN						○
77	チャボホトトギス						NT	VU					○
78	ヒメコウガイゼキショウ						DD	VU					○
79	ユキモチソウ					VU	VU	VU					○
80	マツバスゲ						NT						○
81	アブラガヤ						NT						○
	エビネ属の一種					*2							○
82	ハルザキヤツシロラン					VU		EN					○
83	ガンゼキラン					VU	CR	EN					○

*2: 分布の可能性がある種としてエビネ、キリマエビネ、キエビネがあげられる

表 2.3.5 鳥類の重要種一覧表

No.	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	確認箇所		
		種の保存法	天然記念物	高知県条例	環境省RL	環境省RL	高知県RD	愛媛県RD	WWF干潟	水産庁RD	四万十川	後川	中筋川
1	ヨシゴイ				NT		VU	VU			○		
2	ササゴイ						NT	NT			○	○	○
3	チュウサギ				NT		NT	NT			○	○	○
4	オシドリ				DD		NT				○		○
5	ヨシガモ						VU				○		○
6	オナガガモ						VU				○		○
7	ハシビロガモ						VU				○		
8	アカハジロ				DD						○		
9	ウミアイサ						EN				○		
10	ミサゴ				NT		EN	NT			○	○	○
11	オオタカ	○			NT		CR	VU			○		○
12	ハイタカ				NT		VU	NT			○		○
13	ノスリ						VU				○	○	○
14	サシバ				VU		VU	NT			○	○	○
15	ハイイロチュウヒ						VU	VU			○		
16	チュウヒ				EN		EN	VU			○		
17	ハヤブサ	○			VU		CR	VU			○	○	○
18	チゴハヤブサ						NT				○		
19	ウズラ				NT		EN	DD			○		
20	ヤマドリ						DD	NT			○		
21	ナベヅル				VU		CR	VU			○		
22	マナヅル				VU		CR	VU			○		
23	ヒクイナ				VU			NT			○		○
24	クイナ						EN				○		
25	シマクイナ				EN						○		
26	タマシギ						NT	NT			○		
27	タゲリ						NT				○		○
28	ハマシギ						NT				○		
29	タカブシギ						NT				○		
30	チュウシヤクシギ						NT				○		
31	ヤマシギ						NT				○		
32	コミミズク						EN				○	○	
33	アオバズク						NT	NT			○		
34	キュウシュウフクロウ						NT				○		
35	ヨタカ				VU		VU	VU			○		
36	ヤマセミ						NT				○	○	
37	カワセミ						NT				○	○	○
38	コシアカツバメ						NT				○	○	○
39	ビンズイ						DD	VU			○	○	○
40	サンショウクイ				VU		CR	CR			○		
41	アカモズ				EN		DD				○		
42	ルリビタキ						DD	NT			○		○
43	オオヨシキリ						NT				○	○	○
44	コサメビタキ						DD				○		○
45	サンコウチョウ						NT	NT			○		○
46	ツリスガラ						NT				○		
47	コジュリン				VU		DD				○		
48	ホオアカ						VU				○	○	○
49	カシラダカ						NT				○	○	○
50	ノジコ				NT		DD				○		
51	アオジ						DD				○	○	○
52	オオジュリン						NT				○		○
53	コイカル						VU				○		
54	イカル						VU				○	○	○
55	セイタカシギ				VU			EN			○		
56	ヘラサギ				DD		EN	CR			○		
57	トモエガモ				VU			VU			○		
58	タンチョウ	○	○		VU		EN				○		
59	ホウロクシギ				VU		NT	VU			○		
60	ツバメチドリ				VU			VU			○		
61	アカショウビン						NT	VU					○
62	カヤクグリ						NT	VU					○
63	クロツグミ						NT						○
64	メボソムシクイ						NT	NT					○
65	オオルリ						NT						○
66	クロジ						NT						○
67	コクマルガラス						EN						○

表 2.3.6 陸上昆虫の重要種一覧表

No.	種名	種の保存法									確認箇所			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	四万十川	後川	中筋川	
1	チラカゲロウ						NT					○	○	○
2	コフキヘイトトンボ						VU	CR+EN				○	○	○
3	オスジイトトンボ						EN	CR+EN				○	○	○
4	ムスジイトトンボ						EN	NT				○	○	○
5	オオイトトンボ						NT	CR+EN				○	○	○
6	アジアイトトンボ						NT					○	○	○
7	モノサシトンボ						NT					○	○	○
8	ネアカヨシヤンマ					NT	NT	NT				○	○	○
9	マルタンヤンマ						NT	CR+EN				○	○	○
10	クロスジギンヤンマ						NT					○	○	○
11	ギンヤンマ						NT					○	○	○
12	カトリヤンマ						NT					○	○	○
13	キイロサナエ						NT	NT				○	○	○
14	アオサナエ						NT	VU				○	○	○
15	ヒメサナエ						NT					○	○	○
16	オジロサナエ						NT					○	○	○
17	タバサナエ						NT					○	○	○
18	トラフトンボ						EN					○	○	○
19	ハネヒロエソトンボ					VU	NT	CR+EN				○	○	○
20	マイアカガネ						NT					○	○	○
21	ヒメオオヤマカワグサ						NT					○	○	○
22	ヤマクダマキモドキ						DD					○	○	○
23	クツムシ						NT					○	○	○
24	カワラスズ						NT					○	○	○
25	ショウリョウバッタモドキ						NT					○	○	○
26	ハルゼミ						NT					○	○	○
27	クロスジヘイトンボ						NT					○	○	○
28	ホソバトビケラ						NT					○	○	○
29	オオミノガ						NT					○	○	○
30	ホソバキホリマルハキバガ						DD					○	○	○
31	イラガ						DD					○	○	○
32	オオチャバネセセリ						CR					○	○	○
33	ウラギンシジヨウモン					NT	CR	NT				○	○	○
34	メスグロヒョウモン						NT	NT				○	○	○
35	ツマグロキチョウ					VU		VU				○	○	○
36	オオイシアブ						NT					○	○	○
37	ヨツボシヤナゴミムシ						NT					○	○	○
38	フタモンクビナゴミムシ						DD					○	○	○
39	クロスカタキバゴミムシ						DD					○	○	○
40	オオヨツボシゴミムシ						DD					○	○	○
41	アオヘリホソゴミムシ						NT					○	○	○
42	オオキベリアオゴミムシ						DD					○	○	○
43	ベーツヒラタゴミムシ						DD					○	○	○
44	トックリゴミムシ						VU					○	○	○
45	フタボシチビゴミムシ						NT					○	○	○
46	マルクビゴミムシ						NT					○	○	○
47	チャバネクビナゴミムシ						NT					○	○	○
48	ヒラタアトキリゴミムシ						DD					○	○	○
49	カドツブゴミムシ						DD					○	○	○
50	クロケバゴミムシ						DD					○	○	○
51	イツホシマメゴモクムシ						DD					○	○	○
52	コアオアトキリゴミムシ						DD					○	○	○
53	クビアカツヤゴモクムシ						DD					○	○	○
54	ムラサキオオゴミムシ						DD					○	○	○
55	アイヌハンミョウ						VU					○	○	○
56	ヨシロヘリハンミョウ					VU	CR					○	○	○
57	コハンミョウ						NT					○	○	○
58	ホソセジゲンゴロウ						NT					○	○	○
59	コガタノゲンゴロウ					CR+EN	CR	VU				○	○	○
60	ウスイロシマゲンゴロウ						NT					○	○	○
61	コウベツゲンゴロウ						NT					○	○	○
62	ヒラタクワガタ						NT					○	○	○
63	ヒゲコガネ						NT					○	○	○
64	コケシマゴソコガネ						DD					○	○	○
65	ヤマトタマムシ						NT					○	○	○
66	ジュウクホシテントウ						VU					○	○	○
67	カノロサビカミキリ						NT					○	○	○
68	クワカミキリ						NT					○	○	○
69	クロオビトグムネカミキリ						NT					○	○	○
70	トゲウスバカミキリ						NT	NT				○	○	○
71	クリサビカミキリ						DD					○	○	○
72	ハッカハムシ						NT					○	○	○
73	フジガバチ						DD					○	○	○
74	アオイトトンボ						NT					○	○	○
75	キトンボ						NT	VU				○	○	○
76	ダイリクアガネ						DD					○	○	○
77	キバネキバチガミズギワゴミムシ						NT					○	○	○
78	ツマキレオナガミズマシ						NT					○	○	○
79	ブチヒゲツノヘリカメムシ					CR+EN						○	○	○
80	オスギンバイウンカ						NT					○	○	○
81	ウミミズギワゴミムシ						NT					○	○	○
82	モートンイトトンボ					NT	EN	CR+EN				○	○	○
83	ムカシトンボ						NT					○	○	○
84	クロテンチビゴキブリ						NT					○	○	○
85	カヤキリ						NT					○	○	○
86	ヤマトクロスジヘイトンボ						NT					○	○	○
87	オガタヒロバカゲロウ						NT					○	○	○
88	キントキクサカゲロウ						NT					○	○	○
89	オオギンモンカギバ						DD					○	○	○
90	ウスイロキタバ						DD					○	○	○
91	キモンクチャ						DD					○	○	○
92	クロモンシタバ						NT					○	○	○
93	コアトリアオゴミムシ						DD					○	○	○
94	タナカツヤハネゴミムシ						DD					○	○	○
95	フトキノカワゴミムシ						DD					○	○	○
96	メダカアトキリゴミムシ						DD					○	○	○
97	ヨツボシゴミムシ						DD					○	○	○
98	クロヘリアトキリゴミムシ						DD					○	○	○
99	ダイミョウツブゴミムシ						DD					○	○	○
100	クロツブゴミムシ						DD					○	○	○
101	クロスホナシゴミムシ						DD					○	○	○
102	ヒサマツナガゴミムシ						DD	VU				○	○	○
103	カワラニフジョウカイ						NT					○	○	○
104	タテジマカミキリ						NT					○	○	○
105	ツチイロフトヒゲカミキリ						NT					○	○	○
106	ヨツボシカミキリ					VU	NT	NT				○	○	○

表 2.3.7 両生類・爬虫類・哺乳類の重要種一覧表

No.	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	確認箇所		
		種の保存法	天然記念物	高知県条例	環境省RL	環境省RL	高知県RD	愛媛県RD	WWF干潟	水産庁RD	四万十川	後川	中筋川
1	ニホンアカガエル						NT	NT			○	○	○
2	トノサマガエル						NT	VU			○		○
3	アカハライモリ				NT			低地減少種			○	○	
4	ヒバカリ						NT	低地減少種			○	○	○
5	ニホンイシガメ				DD						○	○	
6	ニホンリス						NT	DD			○		○
7	ジムグリ						DD	低地減少種					○

2.4 特徴的な河川景観や文化財等

2.4.1 特徴的な河川景観

上流部や支川の滑床溪谷や黒尊溪谷等では、夏場のキャンプや水遊び、釣り等に利用され、中下流部では多くの屋形船や遊覧船が運航するとともに夏場を中心としたカヌー利用が盛んである。また、沿川には数多くのキャンプ場も整備され、水とのふれあいなど貴重な自然体験の場となっている。その他、四万十川には高知県等が指定し、保存された 47 橋の沈下橋を含め数多くの沈下橋が存在し、その風景は沿川の森の緑や点在する集落等と一体となり四万十川を代表する景観となっている。さらに、下流部に架橋されている四万十川橋(通称：赤鉄橋)は四万十市民のシンボルとなっているとともに、汽水域には広大な景観が広がっている。

また、四万十川は「日本最後の清流」とよばれ、全国から多くの観光客が訪れている。



図 2.4.1 渡川水系の特徴的な河川景観

2.4.2 渡川水系の文化財、歴史

渡川流域、特に下流の四万十市には、中村貝塚、入田遺跡、有岡遺跡など人々の暮らしの営みを伝える遺跡が点在し、古くから開けた土地であった。

上流部の津野山地域(栲原町、旧東津野町)では、延喜 13 年(913 年)、京より津野経高が入国し津野荘を築いて以来、慶長 5 年(1600 年)までの約 700 年間もの間、津野氏の所領となり、神楽をはじめとする信仰文化や、厳しい山里の暮らしを支える農耕文化や生活文化など、さまざまな山の文化が生まれた。現在も伝承されているものとして、国の重要無形文化財の指定を受けている「津野山神楽」をはじめ、回り舞台での農村歌舞伎などの民俗芸能が挙げられる。

下流部では、京より中村に下向した一条氏が京の都を模して碁盤目状に街路をひらき、延暦寺になぞらえ石見寺に京都の石清水八幡宮を勧請し不破八幡宮(国の重要文化財)を建立し、幡多地方の総鎮守とするなど約 100 年にわたり公家文化の花を開かせた。

一条氏は、京の都を模した町づくりを進めただけでなく、庶民の暮らしや文化を高めるために京の雅な文化を取り入れ、商業の発展や地方の平穏化にも尽力したといわれ、毎年 10 月 10 日行われる不破八幡宮での大祭における「神の結婚式」や旧暦 7 月 16 日に行われる「大文字の送り火」などさまざまな伝統文化が今に伝わっている。



【津野山神楽】

1000 年の伝統をもつ国の重要無形民俗文化財。正式に舞い納めるには 8 時間余りの長時間を要する勇壮な神楽である。



【高野の回り舞台】

津野町の三嶋神社境内で、4 年に 1 度、10 月下旬に開催される伝統の農村歌舞伎。国の重要文化財である「鍋蓋上回し式」の回り舞台で演じられる。



【不破八幡宮大祭】

幡多郡の総鎮守として建立された不破八幡宮で催され、神の結婚式など、全国でも珍しい神事が盛大に行われる。



【大文字の送り火】

毎年旧暦の 7 月 16 日に行われる、四万十市の真夏の風物詩。約五百年前、応仁の乱を逃れて中村に下った一條教房の息子、房家が教房と祖父兼良の精霊を慰め、京都を懐かしんではじめたと伝えられてきた、「土佐の小京都」にふさわしい行事である。



図 2.4.2 渡川水系の主な文化

表 2.4.1 渡川水系の主な文化財（有形・無形）

番号	指定別	種別	名称	指定年月日	所在地	備考
1	国	有形	浜田の泊屋	昭32.6.3	宿毛市山奈町芳奈	浜田地区
2	国	有形	高野の廻り舞台	昭52.6.14	津野町	三島神社
3	県	有形	芳奈の泊屋	昭37.1.26	宿毛市山奈町芳奈	下組部落、道ノ川部落、靴抜部落
4	県	有形	津野山舞台	昭37.1.26	禰原町越知面、 宮野々、四万川	三嶋神社他3
5	国	無形	土佐の神楽 (津野山神楽、津野山古式神楽、幡多神楽)	昭55.1.28	禰原町他6市町村	土佐の神楽保存会
6	県	無形	土佐の太刀踊(磯ノ川太刀踊)	昭40.6.18	四万十市 磯ノ川天満宮	磯ノ川太刀踊保存会
7	県	無形	土佐の太刀踊(川奥の花取踊)	昭40.6.18	四万十町松葉川 川奥白川神社	川奥部落
8	県	無形	土佐の太刀踊(葉山村花取踊)	昭44.8.8	津野町 三嶋神社	葉山村花取踊り保存会
9	県	無形	古城の大念仏	昭54.4.1	四万十町古城	山瀬・追和組中
10	県	無形	地吉の大念仏	昭54.4.1	四万十町地吉	地吉民俗保存会
11	県	有形	鬼北文楽人形頭、衣裳道具一式	昭34.3.31	北宇和郡鬼北町出目	
12	国	無形	伊予神楽	昭56.4.21	宇和島市及び北宇和郡	伊予神楽かんなぎ会
13	県	無形	花踊り	昭37.11.3	宇和島市三間町管根	管根花踊り保存会
14	県	無形	清水の五つ鹿踊り	昭40.4.2	北宇和郡鬼北町清水	清水五つ鹿踊り保存会

表 2.4.2 渡川水系の主な名勝・史跡・天然記念物

番号	指定別	種別	名称	指定年月日	所在地	備考
1	県	史跡	一条教房墓	昭28.1.29	四万十市	四万十市
2	県	史跡	吉村虎太郎宅跡	昭44.8.8	津野町芳生野	個人
3	国	天然記念物	大引割・小引割	昭61.2.25	仁淀川町・津野町	農林水産省
4	国	天然記念物	八束のクサマルハチ自生地	昭3.1.31	四万十市山路	曾我神社
5	国	天然記念物	仁井田のヒロハチシヤノキ	昭18.8.24	四万十町	四万十町
6	県	名勝・天然記念物	長沢の滝	昭60.4.2	津野町	津野町
7	県	天然記念物	地吉の夫婦杉	昭40.6.18	四万十町地吉	
8	県	天然記念物	宿毛市押ノ川の化石漣痕	昭32.10.22	宿毛市押ノ川	
9	県	天然記念物	中村市生の川の夕チバナ	昭30.8.19	四万十市生の川	
10	県	天然記念物	中村市竹屋敷の藤	昭32.10.22	四万十市竹屋敷河内神社	
11	県	天然記念物	東津野村の大藤	昭30.8.19	津野町北川	
12	国	史跡	河後森城跡	平9.9.11	北宇和郡松野町松丸	松野町
13	県	史跡	岩谷遺跡	昭57.3.19	北宇和郡鬼北町岩谷	
14	県	天然記念物	イトザクラ及びエドヒガン	昭24.9.17	北宇和郡鬼北町内深田	
15	県	天然記念物	蔵王神社のイチイガシ2本	昭24.9.17	北宇和郡松野町吉野	
16	県	天然記念物	逆杖のイチヨウ	昭25.10.10	北宇和郡松野町大字蔵生	

2.5 観光、祭り・イベント

渡川流域では、豊かな自然環境を活かした数多くのイベントが催されており、カヌーやキャンプ場、公園等の整備が進められている他、四万十川を舞台とした「岩間の舟遊山(神輿の川遊び)」、「みこし渡し」などの神事が催されている。

「最後の清流・四万十川」として全国的な知名度も高く、平成18年における四万十市を訪れた観光客入込客数は約86万人にもものぼっており、四万十川そのものが地域の重要な観光資源になっている。

表 2.5.1 祭り・イベント一覧表

名称	市町村	概要
子泣かし天狗まつり	鬼北町	鬼北町の太鼓集団「魁」の結成を機会に新しく始めた、鬼北町内の満1歳以上の子どもを対象としたイベント。
花とび踊り	鬼北町	旧暦の1月16日、(2月中旬)節安出身者や高母里地区の人たちによって、お菓師様の境内で安産や家内安全を祈願し、花とび踊りが奉納される。
堂の口開けまつり	津野町	宮谷地区に古くから伝わる、魔除けの大わらじを作る伝統行事。
四万十葉の花まつり	四万十市	葉の花スポットである入田河川敷と不破サイクリングロードに「葉の花接待所」を開設。夜には葉の花の中に紙灯籠を並べる催しも実施。
四万十様まつり	四万十市	四万十市の高台にある為松公園内において催しもの行なわれる。期間中の夜間はイルミネーションにより夜桜も楽しめる。
びんびまつり	四万十町	子供から大人までアメゴ釣りを通して緑豊かな自然を存分に楽しんでもらおうと住民グループと商工会が主体となって行っている。
金比羅宮大祭 五ツ鹿踊り	四万十市	旧宇和島藩・伊達文化の流れをくむもので、締太鼓の響きと共に鹿に扮した5人の子供たちが、1頭の鹿を4頭の鹿が寄り合う様を舞う郷土芸能。
こいのぼりの川渡し	四万十町	色とりどりの鯉のぼりが、川面を渡る風をうけて悠然と泳ぐ姿を見ることが出来る。
四万十川リバーサイドフルウォーク	四万十市	清流四万十川の美しい河原をゆつりと歩くことで、豊かな自然を満喫して頂くことを趣旨に開催されるイベントで、四万十川の春の風物詩となっている。
香山寺ふじまつり	四万十市	市の花である藤の花32品種約400本が4月中旬から順次咲きはじり、様々な種類の藤が楽しめる。
アメゴ釣りな祭	中土佐町	トン漁もアメゴとマスを放流し催され、特産品の販売や子どもや女性向けのつかみどり等も行われる。
四万十川ラジコン水上機フェスティバル	四万十市	全国のラジコン水上機愛好家の自由参加による集い、有料ヘリコプター遊覧、子供紙飛行機大会などのイベントも予定。
坂木の一日様めぐり つつじ祭	四万十市	西土佐坂木地区の住民による体験交流イベント。坂木地区には沈下橋が20もあり、その様めぐりがイベントのメイン。
土佐一橋公家行列「藤祭り」	四万十市	京都の葵祭の公家行列に倣って行われるもので、室町時代の衣装を身にまとった総数延べ200名参加者が、市内を練り歩く。
かわらっ村祭り	四万十市	カヌーや泥んこパレー、草木染め体験、地元の手作り味噌(アユ飯、猪汁)に舌鼓を打ちながら、四万十川にふれあっていた。
トンボ自然公園「ハナショウブまつり」	四万十市	四万十市中村のトンボ自然公園でこの時期になるとハナショウブが多く咲いています。
土佐牛まるかじり大会	橋原町	新緑を迎えた橋原の恒例の行事。
四国神楽大会	橋原町	地元津野山神楽をはじめ、各地から招いた様々な舞いを楽しむことが出来る。
安並氷車の里あじさいまつり	四万十市	安並氷車の里においてアジサイの咲く時期に合わせて、お茶の接待所・観光案内所を設置している。
カルスマラン	橋原町	雄大な景観の中で競技することにより自然とふれあい、全国のランナー達の交流を図ることを目的として行っている。
熊野神社大祭 牛曳	四万十町	上山郷の郷土として毎年夏と秋(8月1日、11月12日)に大祭が開催されている伝統行事。高さ4mの牛曳が無病息災を祈って町内を練り歩きます。
「しまんと市民祭」なかむら踊り・提灯台パレード	四万十市	小京都中村に夏の訪れを告げるイベントで、市民有志で構成する「しまんと市民祭実行委員会」を中心になかむら踊り・提灯台パレードなど市民参加のできるお祭り。
全日本女郎くも相撲大会	四万十市	毎年8月の第一日曜日に市内中心部の高台にある一橋神社境内において開催している。
四万十川水泳マラソン	四万十市	観音名所でもある佐田の沈下橋をスタートし、約5km下流の赤鉄橋まで泳いで下る。3.5kmの部もあり老若男女を問わず誰が参加しても楽しめる大会。
ほのぼのの夏見夏祭り	中土佐町	大野見地区のふるさと祭りと、夜店が出てカラオケ大会並行が行なわれる。地上で行なわれる花火大会は迫力ある光景が楽しめる。
四万十川まつり	四万十町	四万十川の河原を舞台に、水の祭典、伝統行事、郷土芸能など盛りだくさんのイベント。
高原祭り	橋原町	語り子隊による語りや催し物がある。
大文字の送り火	四万十市	間崎地区の盆行事で小京都中村に夏の終わりを告げる風物詩。
四万十次大あゆまつり	四万十町	四万十の恵まれた地域資源のひとつ「鮎」をメインとした住民主体による参加型イベント。
納涼花火大会	四万十市	赤鉄橋下の四万十川河川敷にて開催される納涼行事。
奈良川畔いもたき	鬼北町	河川敷を活用して地元産の新鮮な里芋と鶏肉等を煮込んだ「いもたき」を食べることが出来る。
不破八幡宮大祭	四万十市	不破八幡宮神社祭典にはいろいろあるが、中でも神様の結婚式は当時の路帯結婚の重婚を戒めるために始めたとされ、全面的にも珍しい神事である。
でちこんか	鬼北町	広見町(現鬼北町)合併40周年を記念して平成6年から鬼北町役場横河川敷をメイン会場に、毎年10月中旬に開催されている。
四万十川ウルトラマラソン	四万十市	平成6年から毎年10月に開催される四万十市(中村)～四万十町(十和)～四万十市(西土佐)～四万十市(中村)の清流沿いを駆け抜けるマラソン。
樽多神楽 屋神社大祭	四万十町	4～5時間に及ぶ大神楽で、現在の津野山神楽には見られない古吟の舞も残されている。
高野廻り舞台の農村歌舞伎	津野町	高野地区住民の手により4年に1回、農村歌舞伎が上演されている。
三嶋神社秋祭り 津野山神楽	橋原町	今年の収穫を感謝するとともに来年の豊作を願い、御神幸の衣装を付けた子供や大人が氏子の操る牛曳を先頭に「おなばれ」を行い、津野経高入園以乗伝承されてきた由緒ある津野山神楽を三嶋神社境内にて奉納する。
黒尊渓谷 紅葉まつり	四万十市	四万十川支流の中で、最も透明度の高い黒尊川。渓谷沿いでは、美しい紅葉を楽しむ事が出来る。
地吉八幡宮大祭 五ツ鹿踊り	四万十町	旧宇和島藩・伊達文化の流れをくむもので、締太鼓の響きと共に鹿に扮した5人の子供たちが、1頭の鹿を4頭の鹿が寄り合う様を舞う郷土芸能。
コスモまつり	宇和島市	中山道自然公園やその周辺の刈り入れ後の田んぼも併せて、10haにもなる広大なコスモス園で、その広さは全国でも有数。
津野山古式神楽	津野町	津野山古式神楽は、延喜13年(西暦913年)藤原経高が京より津野山脚に奉迎したときに、神託を劇化したものを神楽として伝えたことが始まりとされている。『宮入り』から『四天の舞』まで全部で17の舞がありすべての舞を舞い納めるには8時間ほどかかる。
花取り踊り	津野町、四万十町	カラフルな衣裳に大太刀・小太刀を持って舞う郷土芸能で、四万十川流域では数多く伝承されている。
台地まつり 米・こめフェスタ	四万十町	踊りあり、芸術ありの台地まつりにあわせて開催される米・こめフェスタの会場では、山・川・海の特産品を使った料理が堪能できる。
谷干城まつり	四万十市	谷干城を題材にした、町民手作りのミュージカルも開催され、本町筋商店街では露天も多く並び賑わう。
一條大祭	四万十市	一條神社の建立が行われて以来、盛大に行われるようになり、各種興業、飲酒等が自由に行なわれ、三日三晩無礼講で酒肴のものをなしとし、土佐3大祭の一つにあげられている。
仁井田神社大祭	四万十町	下津井にある仁井田神社では、毎年11月25日に大祭が行われ、伝統行事である、花取り踊り、牛曳等が披露される。
奈路天満宮大祭	中土佐町	毎年11月25日の大祭には「花取り踊り」があり、出店などで賑わう。
イルミネーション	宇和島市	中山道自然公園で行われるイルミネーション。約50,000個の電球が樹木・建物に点灯され、「トナカイ」や「コスモス」などの立体アートも登場する。



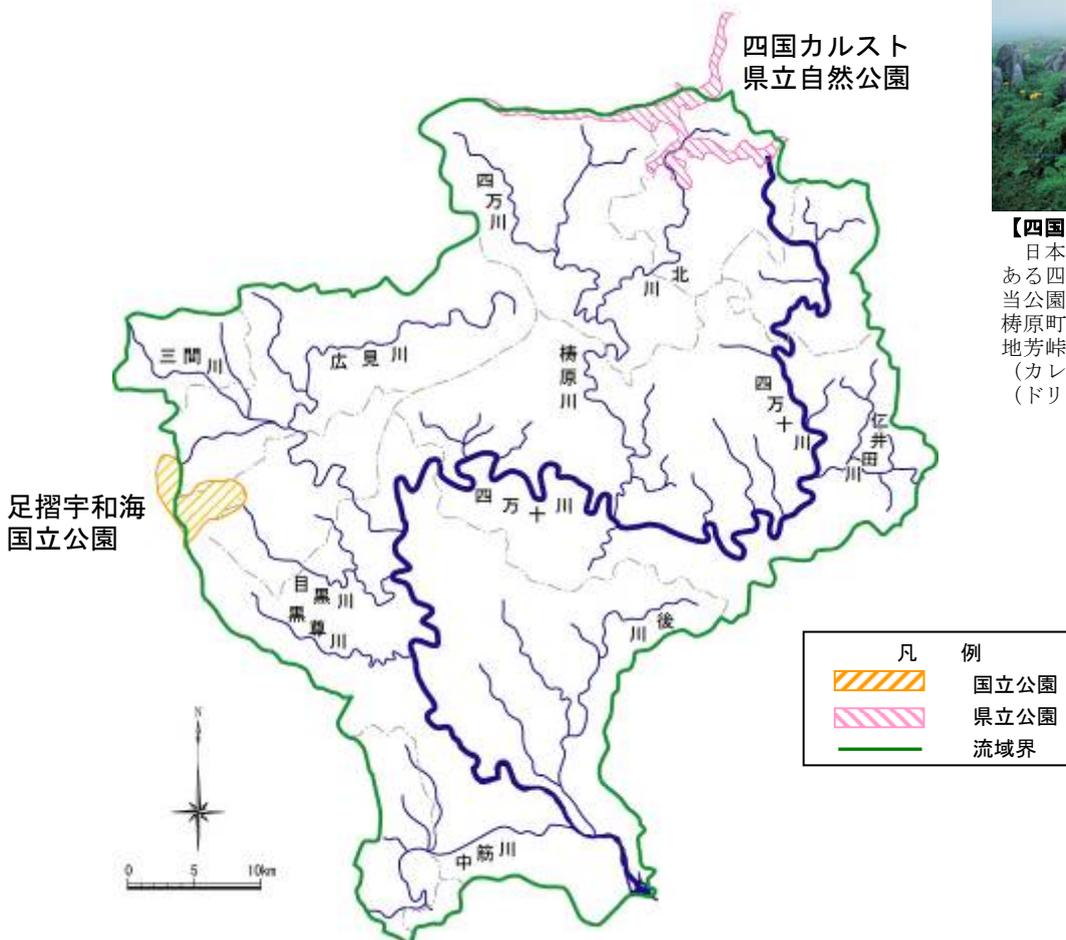
No.	イベント名	No.	イベント名
1	四万十川あったかサイクリング	13	四万十川まつり
2	四万十川清流のつどい	14	フェスティバル西土佐
3	アメゴ釣りな祭	15	ふるさと川下り
4	自然とアユの祭り	16	いもたき
5	天然河川プール	17	コスモス祭
6	高原まつり	18	滑床まつり
7	親子釣り大会	19	四万十川ウルトラマンマラソン
8	清流まつり	20	清流四万十川水泳マラソン大会
9	イカダ下り	21	ウィンドレース
10	四万十川観光開き	22	四万十川カーヌーソン大会
11	十和村納涼夏まつり	23	アドベンチャー シ・マムタ
12	こいのぼりの川渡し	24	四万十川リバーサイドフルウォーク

2.6 自然環境等の指定状況

渡川水系には、国立公園、県立自然公園が1つずつ指定されている。上流部には日本三大カルストのひとつである四国カルスト一帯が「四国カルスト県立自然公園」に指定されている。また、中流部では「足摺宇和海国立公園」に指定されている区域を流域に抱え、^{なめとこ}滑床地区などが公園区域に含まれている。

表 2.6.1 渡川流域における自然公園等の指定状況

公園名	指定年月日	関係市町村	公園面積 (ha)
四国カルスト県立自然公園	S36. 3. 31	梶原町、津野町	1,645
足摺宇和海国立公園	S47. 11. 10	宇和島市、松野町、 鬼北町	5,223



【四国カルスト】

日本三大カルストのひとつである四国カルスト一帯を占める当公園は、仁淀川町と津野町、梶原町にまたがり、天狗高原や地芳峠を中心として白い石灰石（カレン）と播り鉢状の窪み（ドリネ）が点在する。

出典：「高知県自然公園等の概要（H12）」 「えひめ自然環境情報図（平成8年度）」
「愛媛県・高知県鳥獣保護区等位置図（平成16年度）」

図 2.6.1 渡川水系の国立及び県立自然公園・鳥獣保護区指定状況